

おとぎ話の鬼も、「もののけ」であることを初めて知った

つつい毎朝見ていた朝ドラ「ゲゲゲの女房」が、先月末で終わった。
水木しげるの漫画やその TV アニメは一度も見たことがない。

どうも自分には、記憶力も定かでない幼少の頃、伯母の家で地獄絵や妖怪絵の図鑑を目にししたり、故郷の八幡神社の祭りの期間中に年一度のたくさんの屋台、サーカスや見せ物小屋等が来て、見せ物小屋のドロドロ強い看板絵が怖かったのがかなりのトラウマになっているのか、いわゆる妖怪ものの漫画や本、そして今まで妖怪やホラー関係の本、TV 番組や映画も避けてきたきらいがある。

こんな自分なので、妖怪ものがどういうものか、どういう内容かさっぱりも知らないが、朝ドラを見てちょっぴりその世界を知りたいような知りたくないような…(?_?)

そんな心境の時に新聞の書籍欄で「もののけの正体 怪談はこうして生まれた」の書籍タイトルが目に入り、「え〜い！いっそのこと、本丸に入れ！」とばかりに勇気を出して購読した。

歴史的な資料・文献を紹介しながら、「その存在は、災害や疫病、暗闇などの恐れに仮の名や姿を与え儀式で追い払うことで、恐怖心を克服するための文化的装置であった」と著者は云う。

なんだか長年のトラウマ故か、「もののけ（物の気）」とは化け物、妖怪、怪物などを総称することすら初めて知った次第で、おとぎ話に出てくる鬼、天狗、河童も「もののけ」の一種とかで、(@_@)

また、挿入されている資料の絵はやはりじっくり見る気になれなかったし、文書も熟読するまでに至らなかった m(_ _)m。

「もののけ」をネット検索すればあれこれとより知ることができるのだろうが、日頃疑問を持ったら直ぐにネット検索する自分なのに、どうもその気にならず…(>_<)

自分の幼少時のトラウマはかなり深いのだなあ〜と、改めて認識。

それはさておき、本書を読んで、おとぎ話の中の鬼がなぜ角が生えているのか、なぜ金棒を持っているのか、なぜ寅柄のパンツ一丁の裸か、そして、鬼退治した一寸法師や桃太郎はなぜ宝や富を手に入れたのかを知ることができ、来年の節分の豆まきが今までと異なった趣でできそう〜、(^_^;)